

令和6年度 奈良市立辰市こども園 研究実践概要

園長名 田中 典子
全園児数 162名

1. 研究主題

「心を動かし、意欲をもって遊びや生活する子どもをめざして」
～子どもの姿から見えてくる育ちや学びを探る～

2. 研究年度 3年度

3. 研究主題設定理由

昨年度の取り組みで、明日につながる援助や環境構成のあり方を考えることができた。今年度は、継続して子どもの心の動きを読み取り、話し合い、子どもの姿から見えてくる育ちや学びを探りたいと思い、取り組みを進めた。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

子どもの姿から見えてくる育ちや学びを職員間で話し合い研究を深める。

②研究の重点

- ・遊びや生活の中で「子どもの心の動きとは」について職員間で共通理解を図り、着目する視点を明確にする。
- ・子どもの心の動きを見取り、そこでの子どもの育ちや学びを考える。

③活動の方法

- ・各年齢の園内研修や写真の見取りを通して「自分だったらどうする?」「子ども達はどんなことを感じているのかな?」など、子どもの姿から見えてくる育ちや学びについて意見を出し合う。
- ・子どもの姿や心の変容など写真やエピソードがわかるようなシートを作成した。話し合いで出た意見を参考にし、その後実践する。全職員で共有するために、シートを活用し紙面報告する。



調査 報 告 書 年 月 日 ()

エピソード

＜明日につながる援助や
環境構成など、
アイデア・発見＞

＜子どもの育ち
「学び」＞

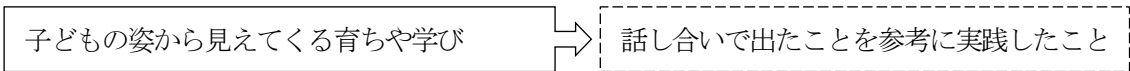
写真

↓
その後

話し合いで出たことを参考に実践したこと

子どもの姿
実践後のエピソード

育ちや学びが変化したこと など



0歳児 5月

三角鏡の中に入ったかと思うとすぐに出てきて「ばあ！」と笑うA児。その時近くにいる保育者も一緒に「ばあ！」と驚き笑い合うと、またA児は鏡の中に隠れ、出てきて「ばあ！」保育者も「ばあ！」というやり取りを繰り返して楽しんだ。

- ・保育者の傍で安心してしたい遊びを繰り返して楽しんでいる。
- ・保育者との一対一のやり取りの中で、心を通わせて楽しんでいる。

- ・思わず「ばあ」と覗いてみたくなる新たな環境の工夫と、子どもと目線を合わせながら一緒に遊びを楽しむ保育者の姿勢をより大切にしたい。

<その後>

仕切りやトンネル等いろいろな穴から保育者を見て「ばあ」と顔を出したり、手を出してタッチを求めたりする姿が見られた。一人一人の子どもが保育者との応答的なコミュニケーションを楽しむことで、安心してしたい遊びをみつけている。

<考察>

子どもの「見て!」「できた!」のまなざしや、「～してほしい」「もういっかい!」の思いを受け止め、応えてくれる保育者の存在や一対一の関わりが、安心してしたいことを楽しむ姿につながっていく。



1歳児 6月

タライに少量の水を溜めて、園庭に用意した。保育者と一緒に、そっと指先で水に触れてみたり、スコップですくってみたり、大胆に水面を叩いてとんでくる水しぶきを喜んだりしていた。「冷たい」「あ!あ!」など自分なりに言葉や喃語で感じたことを保育者に伝え、応えてもらうと嬉しそうにしながら繰り返し水に触れていた。

- ・水の冷たさ、感覚を味わっている。
- ・保育者と心を通わせて遊ぶ楽しさを感じている。

- ・子どもの目線より少し上の所にホースを引っ掛けて、チョロチョロと水を流した。

<その後>

チョロチョロと水が上から下へ流れる様子を目で追ったり、落ちていく水を何度も掴もうとしたり、手の平で受けると顔に水しぶきはねてとんでくることを面白がったりして、それぞれが水に触れることを楽しんでいた。

<考察>

同じ素材（水）でも環境を変えて用意することで、子どもの心が動き、思わず「したい」「やってみたい」という気持ちが生まれることが分かった。流れ落ちる水に大胆に触れることができたことで、五感を刺激しながら体全体で水の感覚を味わえた。



2歳児 11月

泥遊びコーナーで、ペットボトル2本分の水をテーブルに用意しておいた。最初にA児がやって来て、バケツにその水を全部入れてしまった。「あーあ、お水なくなっちゃった」とA児が少し困った表情で言った。保育者も、「ほんとだ、もうないね」と困った顔をして言った。

- ・お水が無くなってしまった、困ったと感じている。
- ・先生も困った顔をしていると感じている。

- ・あえてたくさんのお水を用意せず、ペットボトル2本分の水を引き続き置いておいた。

<その後>

ペットボトルをしっかり両手で持ち、「ちょっとだけ」と言いながら、カップやお椀などの入れ物に少しずつ水を入れて遊び始めた。少しずつ水を入れたカップを机にたくさん並べ、楽しんでいた。



<考察>

子どもがカップに少しずつ水を入れ始めた姿に、保育者が「入れるのちょっとにしたんだね、考えてみたんだね」と共感した事で、ペットボトルから「ちょっとだけ」と言いながら水の重たさや傾け方を子どもなりに考えていた。

3歳児 9月



遠足の次の日、コンテナをつなげたものをバスに見立てて遊ぶ子どもがいた。それを見ていた子どもが「バスにはタイヤあるよ」と言ったので、保育者と一緒にタイヤを運び、「タイヤどこに置く?」「ここここ」とやりとりしながらバスを完成させた。コンテナの中に入って、一番前の子が運転手になり「ドリーム21にいきます」と掛け声を掛けていた。

・楽しかった遠足の経験が遊びにつながっている。
・友達のしていることを見てやってみたい、真似したいと興味をもっている。

・安心できる保育者が寄り添い、ちょっとした投げかけをしたり、子どもからの声を受け止め共感したりするようにした。

<その後>

繰り返し遊ぶ中で、自分達でコンテナやタイヤを運んで用意するようになった。コンテナをさらにつないで長いバスをつくり、保育者や友達と一緒に乗ったり、お弁当や水筒に見立てた玩具を持っていったりして、バスの中での遠足ごっこを楽しんでいた。



<考察>

子どものやりたい気持ちを受け止め、子どもから出るアイデアに共感して、保育者も一緒に遊びながら子ども同士をつないでいくようにした。保育者が見守ったり寄り添ったりすることで、子どもが自分達で進んで遊びの用意をし、意欲的に遊ぶ姿につながった。

4歳児 6月



3人の子どもが、トイにジョウロで水をいれ、水の流れを目で追っていた。長いすに平行にトイを置いていたが、近くで水を使ってダイナミックに遊んでいる5歳児の姿に刺激を受けたのか、トイを傾けはじめた。すると、水が勢いよく流れ出した。水が流れる様子をじっくりみたり、繰り返し水を流したり、拾った石が流れるかを試したりする姿があった。

・水が流れることに興味をもっている。
・近くで遊んでいる5歳児の姿に刺激を受けている。
・高低差があると、水の流れに勢いがつくことに気付いている。

・水が流れる面白さをより感じられるように、見えやすい素材(ペットボトル・波板)や、あえて見えにくい素材(ホースやパイプ)を用意した。

<その後>

いつもの長いすに、昨日使っていた道具を自分達で用意しはじめた。見えにくいホースを選び、高低差をつけて水をいれるが、予想していた反対側から水がでたり、水がでてこなくなったりした。不思議に感じながら何度も試し『ここか?』と思う場所を持ちあげて高さをつけると水が出たことを喜び、新たな遊びを楽しみはじめた。



<考察>

高低差をつけると水が勢いよく流れることに気付いた子ども達の姿から、さらに興味が深まるように様々な用具を選べるように用意したことで、自分達で使いたいものを選び、考えたり試したりしながら遊びだした。ホースの曲線が予想外の水の流れをつくり、より『流れる』ことに興味をもって遊びだした。

5歳児 7月



砂場の上の柱にぶら下がった洗濯バサミを発見した2人の子どもが、「プールみたいに上からバケツをひっくり返して水を流してみたい」と言って、ビールケースを2段に重ねて上に登り、水の入ったバケツを洗濯バサミに挟み、ひっくり返したり、バケツを帽子にして水をかけられたりして楽しんでた。その遊びをみていた子どもがビールケースの上に登っている子どもの足場がグラグラしていることに気付き、「もっててあげる」と友達を支える姿があり、楽しい気持ちを共有して遊んでいた。

- 目的に応じて、遊具や用具を選んだり試したりして使う。
- 友達と共通の目的をもち、したいことを友達と一緒に実現しようとする。

- 「透明」の傘や大きいバケツがほしいという子どもの声があったので大小様々なバケツとやかんを用意した。
- 上から吊るすコース作りができるようにタフロープを用意した。

〈その後〉

次の日も、バケツを吊り下げひっくり返して水にかかることを楽しんでた。傘を広げたり、回したりして水の飛び散り方を見たり、友達と一緒に入って傘のあたる水の音を聞いたりしていた。やかんを洗濯バサミに挟むと重さに耐えきれず、やかんが落下し傘に穴が空いてしまった。次はやかんが落ちないように、砂場の洗濯バサミの数を増やして再度挑戦すると、やかんの注ぎ口から水が出ることに、穴が空いた部分からも水が出てくることに面白さを感じて楽しむ姿が見られた。

〈考察〉

友達と一緒に思いを出し合って遊び、うまくいかなかったことや偶然起こったハプニングがさらに楽しい遊びへつながった。子どものしたいことに合わせて保育者が遊具や用具を用意したことで、より探求心や好奇心をもって遊ぶことができた。また、遊びを通して、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動したりし、共通の目的をもった友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わうことができた。



5. 研究の成果

園内研修や写真の見取りを乳児と幼児の保育者が一緒に行い、保育者間で多面的に子どもの育ちや学びを探ったことで、子どもを理解しようとする姿勢や意識を高めることができた。

子どもの心が動いた姿を育ちや学びの芽と捉え、寄り添い、さらに楽しめるような環境の工夫を考え、実践することにつながった。

6. 今後の課題

今年度、多数の保育者で育ちや学びにポイントを絞って意見を出し合う中で、改めて環境の大切さを学んだ。

次年度は、様々な方法で、よりたくさんの保育者間で意見を出し合う機会を設け、子どもが主体的なもの、ひと、ことに関わって遊ぶ環境の工夫や援助の在り方を学んでいきたい。